

第1学年〇組 社会科学学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 社会科研究主題 「自ら学び、思考し、表現する生徒の育成」
—社会科の調べ学習における学び合いの場を通して—

2 単元名 古代国家の歩みと東アジア世界

3 単元について

(1) 単元観

本題材は学習指導要領の「(2)古代までの日本」の中項目イをうけ、編成した。この内容の取り扱いについては「イの「律令国家の確立に至るまでの過程」については、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きく捉えさせるようにすること」、「聖徳太子の政治や大化の改新については、小学校での学習の単なる繰り返しにならないように留意し、その学習内容を有効に活用しながら、我が国が律令国家として形づくられていったことを大きくとらえさせる」と示されている。

そして、一般的な資料を用いたのでは、小学校の内容の単なる繰り返しになってしまう可能性があるので、生徒が普段目にする機会が少ない資料を用いることで、小学校までの既習内容をベースにして、新しい観点から事象を捉えられるように工夫したい。

本校における社会科の研究主題を「自ら学び、思考し、表現する生徒の育成—社会科の調べ学習における学び合いの場を通して—」とし、研究目標を「生徒が自ら考え、表現できるようになる。」、「各クラスにおける学力面での不安が残る生徒が学力の向上を実感できる。」の2点とした。そこでこの目標を達成するために、次の2点を重視し指導する。1点目は資料の取り扱いにおける工夫である。資料によって授業への取り組みに大きな違いがでるといい。今回の授業では教科書にない、初めて目にする資料(捨身飼虎図や聖徳太子像)を用いることで、聖徳太子の思想についてより深く考えていきたい。そこで資料を見る時間を多めに設定し、調べて読み取った内容をお互いに発表し、知識の共有が図れるような場を設定することにも留意する。また、授業を進めるにあたり、生徒ひとり一人のつぶやきや発言を取り上げ、歴史上の事実を探り、語り合いながら、深めていく。こうすることで、歴史に興味を持って学習し、思考し、表現しあう力がつくのではないかと考えている。2点目は定期的に単元のまとめをし、自分の達成度を明らかにすることである。小テスト形式で自分の達成度を測り、ここまでできた、ここができなかったという点がわかると、学習の躓きがわかったり、学習への意欲が高まったり等、勉強もしやすくなり学力の向上につながると考える。

(2) 指導内容の系統

天皇中心の国家づくりについて

<小学校6年生の内容>

- ・法隆寺から聖徳太子の業績や考えに関心を持つ。
- ・聖徳太子の業績を調べ、どのような国を目指したか考える。
- ・大化の改新や平城京の様子について調べ、国の政治や人々の生活について考える。
- ・聖武天皇が位についたころの社会の様子を調べ、聖武天皇が国分寺や大仏をつくらせた理由を考える。
- ・遣唐使、留学生、渡来人の働きについて調べる。
- ・聖武天皇が大陸との交流を進めた理由を考える。
- ・藤原道長がどのような人物だったのかを調べる。
- ・平安京の貴族のくらしについて調べる。
- ・藤原氏が栄えていたころの文化について調べる。
- ・文化の特色をまとめる。

<中学校1年生の内容>

- ・**聖徳太子の政治について調べ、その政治が何を目指していたのかを、東アジア情勢と関連付けて理解する。**
- ・飛鳥文化の特色を仏教の伝来と関連付けて理解する。
- ・大化の改新から律令国家の確立に至るまでの経過のあらましを理解する。
- ・7世紀の東アジアの動きについて理解する。
- ・律令の制定、都の造営、地方への支配の広がりなどを通して、古代国家の特色について考える。
- ・律令制度の内容を通して、古代国家のしくみを理解する。
- ・班田収授法についてまとめ、奈良時代の人々の生活の実態を理解する。
- ・律令制度の基盤である公地・公民の制がくずれ始めた理由を考える。
- ・寺院や仏像について調べ、天平文化の特色を理解する。
- ・遣隋使や遣唐使の派遣が果たした役割について考える。
- ・平安遷都の理由・意義や、平安時代初めの政治の特色について理解する。
- ・平安時代の新しい仏教の特色について理解する。
- ・摂関政治について調べ、藤原氏が摂政や関白の地位を独占できた理由を考える。
- ・国風化した文化の特色を、代表的な事例を取り上げて理解する。

<高等学校日本史B>

- ・大和朝廷の国内統一、律令体制の成立から奈良時代に至る政治の動向、および律令に基づく土地と人々に対する統治の体制が整備されてきたことを理解させる。
- ・東アジア世界との関係と、古墳時代の大陸文化の伝来や、その後の遣隋使・遣唐使などによってもたらされた文物・制度の影響に着目させ、天平文化などの文化の特色について考察させる。
- ・儒教・仏教や諸制度の摂取、国家による仏教の興隆、造寺・造仏や歴史書・地誌の編纂や国家事業が進められたことなどに着目させ、文化が古代国家の展開と深くかかわりあっていたことを理解させる。
- ・古事記・日本書紀・風土記・万葉集などの記載や諸資料から、古代人のものの考え方や、背景としての生活について考察させる。
- ・東アジア世界との関係の変化、地方における支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の台頭などに着目させ、律令体制の変質に伴って摂関政治や院政が展開したことを理解させる。
- ・遣唐使の停止や地方の動向に着目させ、従来の大陸文化を消化して新しい貴族文化が進展していったことを理解させる。
- ・平安時代の末期には都の貴族文化が地方に普及するとともに、説話集や絵巻物に庶民の姿が見え始めたことを理解させる。

4 生徒の実態について

(1) 学級集団の実態

本学級の生徒は、自分の考えを発言できる生徒が男子生徒を中心に 10 名程度いる。発表を苦手とする生徒の中にも、自分の考えを的確にまとめることができる生徒も少なくない。そこで、挙手による自発的な発表だけではなく、グループによる発表や指名による発表など、発表の形式を工夫して取り組ませる。また、集中して取り組むことができない生徒もいるため、自分の考えをノートにまとめる時間の取り方にも工夫し、教材掲示などの工夫によって、集中して取り組めるように努めている。

(2) 単元にかかわる実態

- ①歴史に関わる小説、伝記、漫画などを読む。〈社会的な事象への関心・意欲・態度〉
- ②新聞やテレビのニュースを見る。〈社会的な事象への関心・意欲・態度〉
- ③資料と関連付けて考え、意見を言える。〈社会的な思考・判断・表現〉
- ④資料から必要な情報を読み取ることができる。〈資料活用 of 技能〉
- ⑤聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足について知っている。〈社会的な事象についての知識・理解〉

※調査方法…アンケート調査およびワークや小テストなどの確認による。

・考察

歴史に関わる小説や伝記、漫画などへの興味は約 53%の生徒が持っており、新聞やニュースなど社会の動き全般に関しては約 78%の生徒が関心を持っている。また、小学校で学習してきた社会科に関する事で興味があることを尋ねたところ、14名の生徒が聖徳太子に関する事や紫式部の源氏物語、戦国武将、ペリーの来航や新撰組、といった歴史に関する事柄を挙げていた。以上のことから、本学級の生徒は社会科に対する興味・関心は比較的高いが、歴史に限定すると興味・関心があまり高くはない生徒もいることが伺える。そのため、全体的な興味・関心を喚起するために、小学校の既習内容に加えてこれまであまり目にしていないであろう資料をなるべく多く用いる。

資料から必要な情報を読み取る技能に関しては、約 85%の生徒がある程度できているのに対して、そこから考えを深め発表するという事に関しては約 65%の生徒が苦手としている実態がある。テストやノートからは、思考力や判断力は満足できるレベルにある生徒が多いと感じる。また、思考力や判断力はあるが発表を苦手とする生徒が多い。そこで、考えをノートへ記述する時間を増やし、机間指導の際に記述内容を確認し、こちらから指名することで自分の考えをまとめ、発表する力を身につけさせたい。

また、聖徳太子や小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足の業績については、小学校の学習内容を十分に覚えている生徒は半数程度であった。さらに、小野妹子に関しては遣隋使なのか遣唐使なのか曖昧な様子が見受けられたので、それぞれの人物の業績についてもしっかりと確認していきたい。

5 単元の目標

- (1) 聖徳太子の政治や大化改新など具体的な事象を通して学習することにより、6～7世紀かけて天皇中心の国づくり行われたことを理解することができ、古代国家の成立に対する関心を高めることができる。＜社会的な事象への関心・意欲・態度＞
- (2) 小学校での歴史学習を踏まえ、律令国家の確立・展開について具体的な事例や様々な資料を活用することによって、多角的に考察することができる。＜社会的な思考・判断・表現＞
- (3) 情報収集の際には多くの資料の中から必要な情報を取捨選択したり、仮説を検証する際に活用したりすることを通して資料活用能力を培うことができる。＜資料活用の技能＞
- (4) 国家の仕組みが次第に整えられていったことについて、聖徳太子の政治、大化の改新、律令国家の確立・展開を通して理解できる。＜社会的な事象についての知識・理解＞

6 指導計画（8時間扱い）

- (1) 聖徳太子の政治改革 ……………1時間（本時）
- (2) 大化の改新 ……………1時間
- (3) 律令国家の成立と平城京……………1時間
- (4) 奈良時代の人々の暮らし……………1時間
- (5) 天平文化 ……………1時間
- (6) 平安京と東アジアの変化……………1時間
- (7) 摂関政治と文化の国風化……………1時間
- (8) 単元のまとめ ……………1時間

7 本時の指導

(1) 目標

- ① 聖徳太子の表情や玉虫厨子の捨身飼虎図から時代背景や自己犠牲心、慈悲の心などを読み取ることができる。＜社会的な思考・判断・表現＞
- ② 十七条憲法や冠位十二階を通して、聖徳太子が目指した国家の在り様を捉えることができる。＜社会的な事象についての知識・理解＞

(2) 展開

学習活動と内容	時配 形態	指導上の留意点 ●学び合える場の設定の工夫	評価(方法)
1 古代の日本を振り返り、有力豪族が大王として政治を行うようになってきたことを確認する。	5分 一斉	○ これまでの学習内容を確認する。	

<p>2 聖徳太子像の写真と一般的な肖像画を比較する。 聖徳太子の表情を見比べ、表情の違いに気付く。 ・太子の様子をみる ・どのような表情か、発表する。</p>	<p>5分 個別</p>	<p>○ はじめに法隆寺の太子像を見せる。次に、一般的な聖徳太子の絵(旧 1 万円札や教科書)を見せ、表情を読み取らせる。</p>	
<p>3 一般的な太子とは異なる意志の強さを感じさせるような表情に気付き、なぜそのような表情をしているのかを予想する。</p>	<p>5分 個別 ↓ 一斉</p>	<p>○ 太子の表情の理由は何なのか、予想させる。小学校での既習内容を参考に、なるべく多くの予想を考えさせたい。 ○ 表情の違いの理由を考えさせ、太子の意志の強さ、仏教を篤く敬い、天下万民を想っていたこと気付かせる。</p>	<p>○ 聖徳太子の表情や玉虫厨子の捨身飼虎図から時代背景や自己犠牲心、慈悲の心などを読み取ることができる。 (観察・ノート)</p>
<p>学習課題：聖徳太子がこのような表情をしているのはなぜか</p>			
<p>・自分なりの予想を立てる ・予想を発表しあう。 (悩みがある、怒られた、偉そうに見える、何かを決意した、など。)</p>		<p>○ 発表前に自分の考えをきちんとまとめる。 ○ 集中できない生徒に対しては、一対一でどんな表情だと感じたかを書かせる。 ● 互いの意見を発表しあうことで、友達の見解の中から参考になるものはノートに記録させる。</p>	
<p>4 捨身飼虎図を見て、太子の思想について考える。 ・捨身飼虎図がどのような情景なのか把握する。 ・捨身飼虎図の意味を考える。 ・捨身飼虎図についての自分の考え(予想)を発表する。 (動物に対しても慈愛の心を持つ、自己犠牲の精神、虎は厳しい状況にある国を揶揄している、など。)</p>	<p>15分 個別 ↓ 一斉</p>	<p>○ 玉虫厨子に記されている捨身飼虎図に注目させ、その意味について考えさせる。 ○ 集中できない生徒に対しては、一対一で捨身飼虎図の情景を確認する。 ○ 人が崖から落ち、虎に食べられていることに気付かせる。また、三人の人物が同一人物で、時の流れを一枚に表現したものであることに気をつける。 ○ 自己犠牲や慈悲の心、国のために命を捨てる覚悟で尽くして欲しいという願いに気付かせる。 ● 互いの意見を発表しあうことで、友達の見解の中から参考になるものはノートに記録させる。</p>	
<p>5 聖徳太子は、国の政治課題を</p>	<p>15分</p>	<p>○ 豪族間の争いをなくすことを考え、「和</p>	<p>○ 十七条</p>

<p>どのように解決しようとしたかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 十七条憲法や冠位十二階の制度，遣隋使から考える。 聖徳太子が律令国家形成の過程で果たした役割について理解する。 	<p>一斉</p>	<p>を大切にしたこと気付かせる。</p> <p>○ 天皇中心の国づくりをするために，どのようなことを行なったか考えさせる。</p>	<p>憲法や冠位十二階を通して，聖徳太子が目指した国家の在り様を捉えることができる。</p> <p>(観察・ノート)</p>
<p>6 まとめと振り返り</p>	<p>5分 一斉</p>	<p>○ 板書をもとに本時の内容を確認する。</p>	

(3) 教科研究主題に関する考察

本校における社会科の研究主題「自ら学び，思考し，表現する生徒の育成—社会科の調べ学習における学び合いの場を通して—」を達成するための手立てとして，資料からの読み取りと自分の考えを発表する場を設定した。一般的な肖像画とは異なる法隆寺の聖徳太子像を比較することで，「なぜ」という疑問が生じることが予想される。また，捨身飼虎図は崖の上の人，崖から落ちている人，獣に襲われている人という3人の人物が描かれているだけで，一見しただけで真意を汲み取るのは難しい。そのため，「これは何を意図しているのだろう」，「何を伝えたいのだろう」という疑問が生じることがも予想される。このようなちょっとした疑問に向き合うことで生徒が自ら考え表現する力は伸びるだろう。また，発表の場を設け，考えを認めることにより，自分で考え発表することに自信を持たせることができるだろう。その自信が達成感となり，それを積み重ねれば，学力の向上を感じ，授業への関心も高まるだろう。集中できない生徒に対しても一対一でどのような表情なのか，どのような情景なのかを一緒に確認することで，学習内容について考えることができ関心が高まるだろう。その上で，出てきた意見を認めることで達成感にもつながり，結果的に授業への集中につながっていくだろう。